

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表：平成 31年 3月 1日

事業所

縁キッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		勉強を行う利用者と療育を行う利用者を別の部屋に分ける工夫をしています。
	②	職員の配置数は適切である	○		限られた人数で支援しているが、毎日「日案」を立て、誰がどの子を見るのか配置決めています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達が分かりやすいよう、部屋に名前をつけています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	○		週に一度、食器はハイターに浸け、床は消毒液で拭いています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		定期的にアンケートを実施し、保護者様の意向を確認し参考にしています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページで公開している	○		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		
	⑨	職員の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		

適切な支援の提供

⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		当日のリーダーを中心に日案を立て、みんなで意見を出し合っています。
⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫している	○		子ども達が飽きないよう、外食・外食レク・調理レク・遠足などを取り入れています。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○		個々の発達段階に合わせた活動を取り組むようにしています。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝、昼のミーティングを行い、TBMKYを確認し支援に取り組んでいます。
⑱	支援開始後には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		次日の朝ミーティングで情報を共有しています。
⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援経過記録を個々に作成し、ケース会議等で検討、いつでも確認できるようにしています。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		6カ月に1回、見直しを行っています。（必要な時は随時）
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		

関係機関や保護者との連携

22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		見学や担当の先生と情報共有しています。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		見学や担当の先生と情報共有しています。
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		県や市、他相談支援センターが行っている研修に可能な限り参加しています。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や電話等で確認、相談し共有できるように努めています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		

保護者への説明等

③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
③④	定期的に、保護者からの子育て悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時、相談に乗ったり、電話での相談も受けています。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会開催の有無について保護者様にアンケートで確認をとったが「必要ない」という回答が多かったため開催していません。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、新聞と行事予定を作成し各ご家庭に配布しています。
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		近隣が公民館なので、時折見学しています。
④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		玄関入口に掲示し、周知しています。
④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	○		防災担当を中心に毎月1回訓練を行っています。（避難訓練は年2回）
④④	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		契約時に確認しています。

非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		些細なことでも報告書を作成し、その後、職員間で共有できるよう話し合いを行っています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研究機会を確保する等、適切な対応をしている	○		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		